

一般演題1 O1-3

当院における高気圧酸素治療を中止、中断した症例の検討

川口達也¹⁾ 長生浩輔¹⁾ 乗松由香¹⁾
 東 幸司¹⁾ 長野準也¹⁾ 楠 勝介²⁾

1) 済生会松山病院 ME部
 2) 済生会松山病院 脳神経外科

【はじめに】

当院での高気圧酸素治療（以降HBO）で、治療を中止、中断した症例について検討したので報告する。
 （中止は予定していたHBOを中止した症例、中断はHBO中に治療を中断した症例とする）

【対象】

当院で2013年4月から2019年3月までの6年間にHBOを行った256名、3688回を対象とした。
 （男性144名/女性112名 平均年齢66.0±16.0歳 /66.9±17.3歳）

【方法】

高気圧酸素治療記録からHBOを中止、中断した症例を抽出し、その原因を診療録で調査、検討した。

【結果】

治療回数3688回のうち治療を中止した症例は42例、50回で中止率は1.36%であった。治療を中断した症例は19例、22回で中断率0.60%であった

中止理由を図1、中断理由を図2に示す。

中断した症例の検討ではHBO早期には耳痛などの軽症例が多かったが、バイタル異常などの重症例は治療回数に限らず発生した。（図3）

【考察】

HBOの中止の原因として、バイタル不安定、患者の治療に対する不安感や治療中の耳抜き不十分がある。

治療を確実にを行うためには、治療前に十分な説明をして、不安を取り除き、治療前の準備を済ませる必要がある。

治療の中止の際には病状を早期に把握し看護師との密な連携をとり、HBOを円滑に運営する必要がある。

HBOの中断の原因として、耳痛、頭痛、下痢が多かった。治療前に十分な説明を行い、不安を取り除き、治療を遂行する必要がある。

HBOチャンバー内で状態変化の為治療を中断する症例はまれであるが、治療回数にかかわらず発生するため、治療中は詳細な観察を行い、急変時の医師、看護師への連絡体制を構築し、速やかに対応可能な準備が必要である。

【結語】

HBOを中止、中断した症例について検討した。

病態による中止はやむを得ないが、その際は迅速に連絡できる体制を構築する必要がある。

中断を前もって予測できる場合は十分な準備をして中断を減らすとともに、予測不能の事態に対しても速やかに対応できるよう日頃から準備しておく必要がある。

参考文献

- 1) 一般社団法人 日本高気圧環境・潜水医学会：第6版 高気圧酸素治療入門 2017;pp121

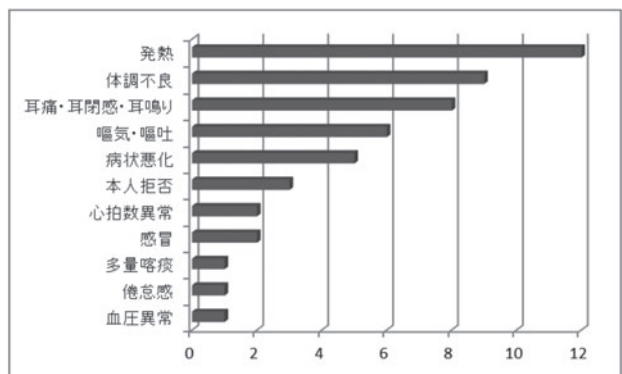


図1

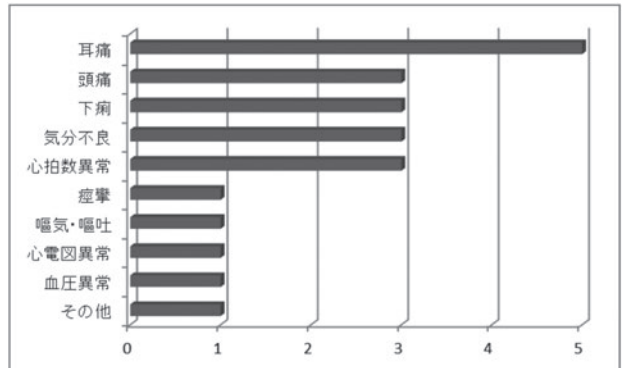


図2

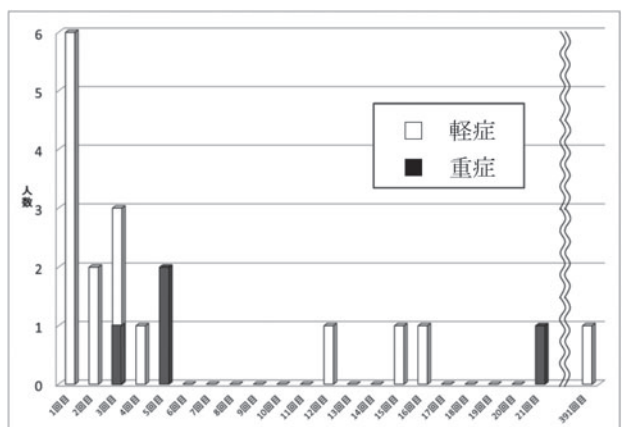


図3